

令和6年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立馬込第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ペアやグループでの活動を通して、資料の読み取りを行うことで、意見の根拠となる部分に踏み込んで考えられる児童が増えた。
- ・コロナ禍による社会科見学の制限が大幅に緩和され、実地調査に行くことができるようになってきている。そのことにより、実際に目で見て感じたことを、教室での学習に活かして考えられる児童が増えた。

(2) 課題

- ・ペアやグループでの活動により、資料の読み取りに成長が見られる一方で、資料だけでは分からないことへの疑問や予想を立てる力が乏しい。そのため、授業の最後に行う振り返りで、疑問や予想を立てさせ、それらを基に授業を構成していくようにする。
- ・身近なテーマではない単元についての正答率が、やや低い傾向が見られる。導入や展開において、動画や写真などの視覚的な資料を積極的に用いることで、児童が少しでも身近に感じられる資料の提示を行う。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	達成率は7割をやや上回っている。		
第5学年	達成率は7割をやや上回っている。	(第4学年時) 達成率は7割をやや下回っている。	
第6学年	達成率は6割を下回っている。	(第5学年時) 達成率は7割をやや下回っている。	(第4学年時) 達成率は7割を上回っている。

達成率とは、目標値^{※1}以上の正答率^{※2}だった児童の割合

(目標値以上の児童数÷受験者数×100 (%))

例えば、達成率が7割ということは、目標値に達成した児童の割合が7割ということ。全体の児童が100人としたら、目標値に達しているのは70人で残りの30人は、前年度の基礎的な内容の定着に課題があることを示す。

※1 目標値とは、調査において前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される正答率の値

※2 正答率とは、出題数に対する正解した問題数の割合

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 正答率は目標値をやや下回っている。 地図記号や四方位の選択問題で目標値を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は7割を超え、目標値を上回っている。 どの問題も目標値を上回る正答率となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は目標値を上回っている。 記述問題については無回答の児童も見られた。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 正答率は、目標値を下回った。 第5学年は「くらしをささえる水」において目標値を下回った。 第6学年は、「世界中の国土」の読み取りが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は、目標値を上回っている。 第5学年は資料の読み取りにおいて正答率が高い。 第6学年は食糧生産の資料の読み取りに対して苦手意識がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 正答率では、第5学年は目標値を上回り、第6学年は目標値を下回った。 記述式の問題に対して苦手意識がある。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 各单元の中で資料や写真から読み取ったことをペアやグループで共有し、日常生活の具体的な場面と結び付ける活動を取り入れる。 住んでいる地域の地図を活かした活動の中で、地図記号や四方位を確認することで知識として定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料から、内容とその目的を結び付け、友達同士で説明し合う活動を取り入れる。 必ず個人の振り返りを行い、疑問や予想をたてる時間を設ける。活動中には教師が問いかけを行い、考えを深められる手だてを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な学習を展開できるように、実際に見学に行く機会を設ける。見学できない場合も動画での学習を積極的に取り入れる。 疑問に思ったことを共有し、児童の興味関心が学びの中心となるようにする。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 教科書を見ても分からない言葉は、聞くだけでなく、自らタブレット端末を活用して調べられるようにする。 資料集を積極的に活用し、資料に触れる時間を増やす。 漠然とした事象だけでなく、身近な場面に置き換えて問題を提示することで、知識の定着を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 自身の考えを表現するだけでなく、友達の意見をノートに記述することで、多様な意見を基にして自身の考えを深められるようにする。 読み取った資料を基に、ホワイトボードやタブレット端末を活用し、資料だけでは分からない疑問点や予想に踏み込める工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書だけでなく資料集やタブレット端末も活用して調べられるようにする。 クラス全員で单元の問題を共有して学習問題作りを行い、課題を自分事として捉えられるようにする。 体験的に学習を取り入れ、実際に触れる時間を設定する。